

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	平成27年度 第1回 文化財保護審議会
2 開催日時	平成27年9月3日(木) 14時から
3 開催場所	加賀田神社社務所
4 会議の概要	◎議事 「加賀田神社本殿彩色修復事業の修理方針と現状変更」 について ◎報告 「平成26年度事業報告」について ◎その他 上記の1件の議事、1件の報告が行われた。
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	3人
7 問い合わせ先	(担当課名) 生涯学習部 ふるさと交流課 (内線749)
8 その他	特になし

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

平成27年度 第1回 文化財保護審議会議事録

日 時：平成27年9月3日（木）午後2時から午後4時

場 所：加賀田神社社務所

出席委員：櫻井 敏雄 会長

中村 浩 副会長

樽野 博幸 委員

長田 寛康 委員

山田 智子 委員

小谷 利明 委員

事務局側出席者：井上剛一 ふるさと交流課長

太田宏明 ふるさと交流課文化財保護係長

八木沼彩 ふるさと交流課文化財保護係副主査

案 件： ・議事第1号

「加賀田神社本殿彩色修復事業の修理方針と現状変更」について

・報告第1号

「平成26年度事業報告」について

【開会】

〈課長挨拶〉

〈会長挨拶〉

【議事第1号】「加賀田神社本殿彩色修復事業の修理方針と現状変更」について

櫻井会長：この建物は、建築当初は単彩色であったと思われるものであり、通常であれば、単彩色に戻し、明治期の彩色については剥ぎ取りを行うのが通常のありかたである。今回は、明治期の彩色を復元するという事なので、それなりの理由が必要である。まず、長田委員の見解をお伺いしたい。

長田委員：通常、このような彩色は、中国の故事を描く場合が多いが、この事例では馬や花鳥画が描かれている。修復の方法についても描き直すのではなく、補彩をするという事なので、適切な修理方法であるといえる。また、補彩にあたっては、昔は後補が分からないようにした。しかし、今は、ある程度観察すれば、どこが後補なのかわかるように修理をするのが一般的である。なお、一番よく残っている箇所は、補彩をせずに、残して、修理前の状況を観察できるようにして

おくとよい。

櫻井会長：中村委員から、なにか補足はないか。

中村委員：大阪府の指定を目指すという事なので、修理の過程を記録したものを残すために修理報告書の刊行を考えた方がよい。

櫻井会長：長田委員のご意見のとおり、一部オリジナルを残すのはよい事である。オーセンティティという考え方を尊重した方がよい。一部オリジナルな部分を残すのは可能か？

山内 氏：もう少し処置をすれば可能である。

櫻井会長：建築当初の状態にせず、明治期の彩色を復元するとなれば、明治期の彩色に、もう少し価値づけが必要である。また、この価値は報告書でも明記する必要がある。長田委員が以前この彩色は絵画的であると発言されたが、この点は彩色の価値をつけていく上で重要である。

長田委員：まず、彩色には落款が押してある。名前が読み取れないのは残念であるが、初めから落款を押す場所を踏まえてレイアウトされている。これだけではなく、社殿の壁全体がカンバスとして、絵画がレイアウトされている。このような意味で単なる壁面装飾というよりは絵画であるといえる。明治期は文人画派と写実派が対立をしていた時期であり、この彩色は文人画としての作品である。また境内には絵馬が多く残っているので、そのような絵馬の絵師が描いたとも考えられる。

小谷委員：引用されている「谷氏徳恵伝」の資料的性格を明らかにする必要がある。近世・近代の資料を検討すると廃仏毀釈との関係が分かるかも知れない。

樽野委員：絵馬が描かれているが、実際の馬と形状が異なる。描き方にくせがあり、このような意味で同じ絵師によって描かれた作品を特定する際の指標になるのでは？

長田委員：絵画には手本画というものがあるので、その手本画の影響かもしれない。

櫻井会長：建物の特徴をのべると、先進的な状況が見られる。彩色の修理には、オーセンティティも重要であるが、修理の可逆性も重要である。明治期の彩色を復元する点では結論が出たが、どの程度復元するのは、引き続き検討する必要がある。

長田委員：正面はある程度復元をした方がよい。背面は抑え気味にした方がよい。また、絵画がよく残っている部分は抑えた方がよい。

櫻井会長：結論が出たので、長田委員にもご指導を得つつ、事業を進めて欲しい。

【報告第1号】 「平成26年度事業報告」について

櫻井会長：文化財普及啓発事業では、かなり多くの来場者がある。この事情はなにか？特に旧三日市交番の来場者が多い事について説明をお願いしたい。

事務局：金剛登山の帰りに街歩きをする人が増えており、また、旧三日市交番は観光シーズンやイベント時に開館しているので、この2つの理由による。

井上課長：毎年10月に開催されている高野街道祭りで、非常に多くの来館者があるが、これを除くと、来場者は特に多いわけでもない。

小谷委員：前回の審議会でも指摘したが、新史料によって烏帽子形城の最終段階の使われ方が分かったので、整備にも反映させる必要がある。

事務局：今後、説明看板の原稿を作成する際に参考とする。その際には指導をお願いしたい。次回の審議会でも検討結果を報告する。

【その他】

事務局：平成27年度第2回文化財保護審議会は11月27日に開催する。

【閉会】

以上